

(様式6-2)

研修派遣 精算書

令和 7 年 7 月 22 日

三田市議会議長 福田秀章 様

本会派（私）は、研修派遣（参加）に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	創志会	代表者	幸田安司
		議員名	小杉崇浩
参加者氏名	小杉崇浩		
研 修 先	リファレンス西新宿大京ビル		
講 演 会 等 研 修 名	人口減少対策 地方創生 特別研修		
研 修 事 項	1. 人口減少を克服する戦略 2. 人口減少に対応する方策 3. 地域活性化と政策づくり		
日 時	令和7年5月28日（水）～5月30日（金）		
支 払 金 内 訳	科 目	支出額	摘 要
	参加負担金	45,000 円	
	宿泊料	27,000 円	(2泊分)
	日 当	9,000 円	(3日分)
	鉄道賃	30,540 円	J R 三田駅⇒J R 新宿駅 (J R : 乗車券 9,460 円、新幹線指定席 5,810 円) J R 新宿駅⇒J R 三田駅 (J R : 乗車券 9,460 円、新幹線指定席 5,810 円)
	その他		
	合計	111,540 円	
備 考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入  
交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

(様式6-3)

研修等 報告書

令和 7 年 7 月 22 日

三田市議会議長 福田秀章 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	創志会	代表者	幸田安司
		議員名	小杉崇浩
参加者氏名	小杉崇浩		
講演会等研修名	人口減少対策 地方創生 特別研修		
研修事項	1. 人口減少を克服する戦略 2. 人口減少に対応する方策 3. 地域活性化と政策づくり		
日 時	令和7年5月28日(水)～5月30日(金)		
場 所	リファレンス西新宿大京ビル		
所 見	研修報告書別紙		
添付資料	・当日配布資料 ・研修報告書別紙 ・当日会場写真		

6 添付書類（講演会内容のパフレット等）

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、参加者氏名は不要）

## 【研修報告書別紙】

### 《まとめ》

講師の牧瀬稔先生は、関東学院大学の教授で、民間のシンクタンクや自治体でも勤務経験があり、民間企業や自治体のアドバイザー、審議会の委員等も務めている方でした。

#### ●人口減少を克服する戦略

- ①地方創生とは
- ②日本の将来人口推計
- ③人口減少を勝ち抜く視点
- ④シティプロモーションとは何か
- ⑤苦悩するシティプロモーション
- ⑥人口牽引につながるかもしれない「教育」

地方創生の取組みにより、将来人口推計による人口減少予測は緩和されてきている面はあるが、外国人の入国見込みの増加や平均寿命の伸びが影響しており、出生数は増加していない状況である。人口の自然増には限界があり、社会増を目指さなければならないが、国全体で考えるとゼロ・サムとなってしまう課題がある。とはいえ、各自治体にとってはシティプロモーションを効果的に実施することが求められる。シティプロモーションはターゲットを絞ることが重要で、近年の関係人口の増加まで目的としている政策では、結果に結びつかない可能性が高い。マーケティングの手法を取り入れ、ブランディングと一体的に進める必要がある。

#### ●人口減少に対応する方策

- ①【情報提供】コンパクトシティ
- ②近年の地方創生
- ③シビックプライドとは何か
- ④共創とは何か
- ⑤協働・共創が進む自治体側の理由

コンパクトシティ構想が提唱されて久しいが、現実的な課題が多く、成功事例は少ない現状にある。近年は、コンパクトシティを目指すのではなく、人口が減少しても持続可能な地域社会の構築を目指す動きが出てきている。その一つとして注目されている概念がシビックプライドである。関係人口を分類すると、①活動人口、②関心人口、③問題人口、④弊害人口の4つに分けられる。シビックプライドにより、関係人口のうちの活動人口の割合を増やすことができる。活動人口とは、地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりに活動する者のことである。また、多様化する市民ニーズに対応するために、行政サービスも多様化し、その仕事量が年々増加している一方で、自治体職員の数は減少傾向にあり、政策公害という言葉も生まれているような状況にある。その自治体職員と行政事務のギャップの解消のため、自治体と民間企業等との共創が求められている。

## ●地域活性化と政策づくり

- ①地域活性化を創出した事例
- ②地域ブランドとは何か
- ③地域イメージ構築の必要性
- ④PDCAサイクルの落とし罠
- ⑤問題発見に必要な3視点

地域活性化を創出した事例に、境港市の「水木しげるロード」がある。その成功要因は、鬼太郎という妖怪の一転突破という点と、商店街全体をテーマパーク化し、非日常を提供できている点にある。そして、リピーターを創造する仕組みもうまく作っている。他の成功事例からも、ないものねだりをするのではなく、すでにあるものから一転突破を目指すことが求められている。シティプロモーションに取り組む自治体は増えているが、ブランド化ができておらず、地域イメージの構築に結びついていないものが多い。自治体の政策形成においては、データの収集・分析をもっとしっかりできるようにすべきである。自治体シンクタンクの設定等、EBPM（エビデンスベースドポリシーメイキング）が実践できる組織が求められている。

### 《所見》

今回の研修を通して、地域活性化のためには、市民の意識向上とそれを支える戦略をしっかりとデータ分析を踏まえて実行していくことの大切さを改めて考えさせられました。場当たりの政策や感情論に流された政策では、短期的にうまくいっても、長期的な成功に結びつかないことが多いので、今後、三田市においても、EBPMを踏まえて政策立案できるようにしっかりと働きかけていきたいと思えます。